

第五世代コンピュータは、日本語で命じると適切な作業をするコンピュータの開発だったとか。今の RPA はコーディングが必要ということで、ちょっと考えて見ました。

第五世代コンピュータを実現する時には、次の能力が必要になります。

- (1) 言語処理
 - (2) 作業空間の知識を獲得・保持
 - (3) 具体的作業の実現
-
- (1) の言語処理は、言語の獲得と言語認識と言語表出があります。言語能力は ATN を基本としたオートマトンプールで表現されると仮定します。そうすると、言語獲得は、日本語を沢山聴いて（読んで）、ATN となるオートマトンを獲得していくことに成り、これは他のコンテンツで詳述している交差法で実現できます。そのオートマトンの意味も作業を実現しながら言語を発されることにより、オートマトンとして(コマンドとして)対応付けられますから、ATN の接地の問題はクリアされます。
 - (2) の作業空間ですが、ページめくりとかファイル探索とか、ページ内の記述要素を定義することで、これも実作業しながら獲得できる知識です。実作業に名前を与えると、その名前のファイルやページ、データ要素を検索できるようになります。そんな空間を内面に持てば良いのです。
 - (3) の具体的な作業はコマンドを自然言語で定義して、その自然言語を発すれば、作業してくれるロボットができます。

注意すべきことは、学習データは狭くしないことです。ファイルについては、このファイルではなく、このファイルグループのこれというふうに指定し、RPA に探させる余裕を与えます。

また、名寄せとかの曖昧性の処理も考慮すべきです。処理状況もメッセージで通知するように RPA システムを作り込む事です。

おわり